

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 23 年 1 月 13 日 (木) 10:00 ~ 11:20

場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室

出席者 和田政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、金澤議員、
梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 優先度判定のフォローアップについて

< 須藤参事官、有松参事官説明 >

白石議員 質問というかコメントです。アクションプランのところで何を重視するかということですが、4 ページの g と h というのは、確かに来年度の予算について考える限りは、アクションプランで重視したこういう政策パッケージのところに予算がついた、政策誘導の効果があるということではいいのですが、来年度以降アクションパッケージの対象範囲を増やしていくと、当然のことながらこの数値というのは落ちていくわけですね。項目ごとの優先順位というのはだんだんと低いところへ下りていきますから、中長期的に見ますと、ここは下がっていかざるを得ない。むしろそれより重要なのは、査定率が高く、アクションプランでやったことというのが、予算の査定のところでは一般の全般的なものよりも高いのだというほうが、アクションプランの効果を説明するものとしてはいいのではないかと思います。

それで見ますと、特に先ほど既に説明がありましたけれども、ライフのほうは特殊な理由で査定率が低くなっていますけれども、グリーン・イノベーションのほうについては、査定率が全般的に 84.8% になっている。これ一般のほうの優先度判定の S よりも高いのですよね。ですから、長期的にアクションプランの意味を説明する時にはむしろこっちのほうを出しておいたほうがいいのではないかなという気がいたしますが。

相澤議員 ただいまの点は、今回のアクションプランの対象となったのが最重要課題だったということと重なっていたために、重点投資と査定率の高いということとが重なっているのですね。今、白石議員のご指摘は、その効果を分けてわかるようにしておいたほうがよろしいだろうというご指摘だと思います。

白石議員 それからもう一つ、一番最初に防衛省の予算のところでもってかなり変動があるのだと。防衛省のところだけ除いてざっと計算してみると、22年度から23年度にかけて 4.7% 増になりますね。だから、全部、防衛省のところだけ外した数字、一応 (注) に入れておくというも手ではないかと思いますが。別によく見せるという意味ではなくて、こういう年度ごとの変動要因を取り去って、もう少しこれから比較可能なものにするという意味で。

相澤議員 ただいまのところは、防衛省のこの予算の中身を科学技術関係予算の中にも含めるということ、どういうバックグラウンドあるいはルールで取り込まれているのでしょうか。

須藤参事官 当然、防衛省の中でも研究開発をされておられますので、国としての研究開発という

ことでは計上しなくてははいけないということで入れさせていただいているということに尽きますけれども。

相澤議員　そういう理解であるところを、今、白石議員が言われたようなことで少し……。

白石議員　これはかなりテクニカルな要因で下がっているわけですね。

須藤参事官　いわゆる歳出のお金のまさにテクニカルな状況ですので。白石先生がおっしゃっているのは、防衛省の数字も入れてもいいのですが、それ以外のものという形で示すということですか。

白石議員　いや、防衛省の場合に、テクニカルな要因で毎年増減がこんなにフラクチュエイトするのであれば、防衛省だけ外した数字も参考の時にに入れておけば、そういうテクニカルな要因なしに増減はどうなっているかということは一般的には見えやすいので。

須藤参事官　だから、両方という意味ですね。

白石議員　はい、両方という趣旨です、もちろん。隠せという意味ではありません。

岩瀬審議官　あくまで参考のデータとしてそういうのを見てみたらということで、合計の範囲のことをおっしゃっているということでは全くない。

白石議員　そういうことです。

和田政務官　ほかの府省で債務負担行為のような事例が発生していたりしますか、今まで。今回の防衛省がまさに白石先生おっしゃるテクニカルな話であれば、今のようなのが一番いいと思いますけれども。

須藤参事官　ほかの役所でもそういうものは当然入ってございますけれども、特に防衛省の場合はそれがかなりの金額で出てくるということでございます。

和田政務官　今回ざっと見渡した時にかなりイレギュラーな話だというふうには言えるということですか。

須藤参事官　はい、言えると思います。政務官のご趣旨は、ほかの役所でもそういう歳出があるのでということだと思っております。

和田政務官　そうそう、性格いうものとしてはあるものの、それは相当微々たる、ネグリジブな小さな数字であって、今回の防衛省のやつはそれがドーンと出ているからということであれば、白石先生がおっしゃったようにするのが我々のわかりやすさを担保する上でいいかもしれません。

須藤参事官　まさに政務官がおっしゃいましたように、そういう形という、ほかのものはネグリジブルということで申し上げたということでございます。

今榮議員　23年度科学技術関係予算案の4ページの右の図と左の図の関係を眺めていて、関係がもう少しわかりやすいといいなと思っているのですが。お伺いしたいのは、内局の分はかなり各省の予算が入っていて、それ以外が少し入ってきていて、運営費交付金は文科省の予算がかなりここに入っているという理解でよろしいのですか。通産省と文科省のお金がどのようにこちらのほうで振り分けられているのかがわかるといいなと思っております。

須藤参事官　まず大学等の運営費交付金というものは文部科学省の予算となっておりますけれども、独立行政法人の運営費交付金ということになりますと、文部科学省、経済産業省はじめそのほかの研究開発を行っておられる独法を所管されている省庁のお金がこっちにきているということでございます。

相澤議員　よろしいですか。

今榮議員　はい、結構です。

相澤議員　どこのところがわかりにくいというふうにおっしゃったのですか。

今榮議員 実際にはこのお金がどのようにこっちに流れているかというのをお聞きしたかったので、今その話をお伺いしましたので。

相澤議員 それでよろしいですか。

今榮議員 ええ、なかなか簡単ではない……。

相澤議員 大学等という部分、ここの部分だけは文科省が中心である、ほとんどであると。しかし、そのほかのところは各省がそれぞれの形でコミットしているものですからね。

今榮議員 入っているということですね。

相澤議員 よろしいでしょうか。

それでは、ただいまの全体の予算構成と優先度判定にかかわることでございますが、これらにつきましては、来年度の予算編成取組についての検討を行わなければなりませんので、その時にいろいろと解析をし、そして、次なる対策を立てるということにさせていただきます。

それでは、本日は現在のところの政府案の状況の報告ということにとどめさせていただきます。

議題2．先端融合領域イノベーション創出拠点の形成プログラムの再審査の結果について

(個別の審査に関する内容であるため非公開)

(以上)